

平成30年度 第2回 四街道市障害者自立支援協議会  
議 事 録

日 時 平成31年2月15日(金) 午前10時30分～午前11時35分まで

場 所 四街道市保健センター3階 第2会議室

出席委員 川崎 鉄男委員 清水 真奈美委員 伊藤 郁 委員 今泉 裕 委員  
金子 進 委員 木内 操 委員 坂本 紀久委員 佐野 明彦委員  
菅原 保 委員 戸室 美佐子委員 中野 美季子委員 中村 史夫委員  
野口 文見委員 藤井 康行委員 村田 かおり委員 山中 正和委員

欠席委員 浅野 亨 委員 岡本 浩美委員 中山 直子委員 橋本 美枝委員

事務局 福祉サービス次長 障害者支援課長 他事務局職員7名

傍聴者 2人

会議次第

1. 開 会

2. 議題

1) 各部会の活動報告及び活動計画について

①生活部会

②就労部会

③療育・教育部会

2) その他

3. 閉会

1. 開 会 省略

2. 議 題

1) 各部会の活動報告及び活動計画について

(各部会ごとに、平成30年度の活動実績と平成31年度の活動計画を報告。資料参照。)

① 生活部会【報告は木内委員(生活部会長)】

【川崎会長】

ただいまの説明に対し、質問・意見はあるか。無いようなので、次に就労部会の報告に移る。

② 就労部会【報告は清水副会長(就労部会長)】

【川崎会長】

ただいまの説明に対し、質問・意見はあるか。

【清水副会長】

配布された資料の中で、3月28日に開催を予定している就労部会の会場が保健センター3階視聴覚室となっているが、市役所新館1階会議室の誤りなので訂正をお願いしたい。

【川崎会長】

他に質問・意見はあるか。無いようなので、次に療育・教育部会の報告に移る。

③ 療育・教育部会【報告は伊藤委員(療育・教育部会長)】

【川崎会長】

ただいまの説明に対し、質問・意見はあるか。無いようなので、議題(1)については以上とする。

2) その他

【川崎会長】

続いて議題(2)に移るが、事務局から何かあるか。

【事務局】

本会の委員の任期が今年度でいったん満了となる。次年度については、事務局より各団体に推薦の依頼を出させていただき手続きを踏んだうえで、お願いをする形になると思うので、その際にご協力のほどお願いしたい。次回の開催については、現段階で未定であるが、例年通りでいけば、5月中旬ごろの開催を見込んでいる。

【川崎会長】

事務局の説明に対して、質疑・意見はあるか。

【伊藤委員】

本会が昨年度から動くようになり、年数回の開催がされているが、毎回各部会の活動発表のみになっている。本会の中でしっかりと議題を話し合ったうえで、四街道市として専門の部会に内容を下ろしていけるような体制を作ってほしい。各部会が個々で活動しているというのは、よく理解している。しかし、部会ごとで連携が図れていない気がする。また、市としては今後どうしていきたいのかが見えてこない中で、このまま次年度も部会ごとにバラバラで活動をしていくというのは、組織として勿体ないという気持ちがある。事務局としてはどう考えているか。

【事務局】

本会の中で扱う議題については、事務局から提案するというよりは、委員の皆さん同士で話し合いを行い、どのようなテーマを話し合いたいかを出し合っていていただいて、その中で出た意見に沿って、本会で話す内容か、部会で話す内容かを検討していくという流れが望ましいと考えている。

【伊藤委員】

その点を踏まえ、次年度では就労部会と生活部会、療育・教育部会で年1～2回ほど部会長・副部会長出席のもとで、今後どうしていくかを検討するということは可能であるか。

【事務局】

それについては、新年度の体制が整った時に合わせて検討させていただきたい。

【伊藤委員】

よろしくお願ひしたい。

【川崎会長】

他に意見等あるか。

【山中委員】

防災部会を立ち上げていただけないだろうか。

【事務局】

防災部会については、以前に1度立ち上げをし、以降は活動を休止している状態である。今後、活動を再開するに当たっては、本会の中から部会員を出していただき、その他の方で協力していただける人がいれば声掛けをし、協力会員として活動を行うという流れになる。現在の本会委員の方の中で防災部会の部会員として活動を希望したいという方がいて、決を採ることができれば部会を再度設置することは可能と考えられる。

【川崎会長】

事務局の説明のとおり、防災部会については「再開」という形になるが、他に防災部会について意見があれば言っていただくとともに、「自分が部会をやりたい」という希望があれば、この場で発言をお願いしたい。

【山中委員】

私は、部会員として活動をしたい。

【川崎会長】

活動を希望する人がいるので、防災部会の再開を検討できるか。

【事務局】

現在の本会委員は次年度に入れ替わる可能性もあるので、次年度1回目の本会で、改めてこの件について諮らせていただきたい。その際にもう一度防災部会の部会員をやっていただける方を募りたいと思う。

【川崎会長】

それでは、防災部会を次年度設置の方向で皆さんから決を採りたい。賛成の方は拍手をお願いしたい。

《全員異議なし》

それでは、事務局のほうで設置に関して考えていただければと思う。他に意見等はあるか。

【菅原委員】

部会の立ち上げは必要だと思うが、社会福祉協議会の中にも防災ボランティアが置かれているなど、防災に関しては市に様々な機関がある。それらの機関と連携を図っていくことも必要と思われる。

【山中委員】

それに関連して、自治会や民生委員の参加も考えていただきたい。立ち上げを検討する際には、構成員として声掛けを行うかどうか事務局に伺いたい。

【事務局】

自治会、民生委員に声掛けをするというのは、どの位の範囲でお考えか。

【山中委員】

全員に声掛けをすることはできないか。

【事務局】

物理的に全員への声掛けはできない。自治会・民生委員に対しては、本会等で部会についての意見がまとまった段階で、説明の場を設けるという方向にしたい。

【菅原委員】

民生委員運営協議会にも援護対策研究部部会があり、そこでは障害のある人の状況やその家族から生活について話を聞くなど、障害のある人たちと関わりのある活動をしている。民生委員との関係でいえば、防災部会の体制についてまとめた上で、民生委員の立ち位置とすり合わせていくことができれば、かなり良い話し合いができるのではないかと思う。

【事務局】

部会の枠組みが決まった時には、民生委員に対しての説明の場も設ける方向で考えたい。

【山中委員】

話が大きくなってしまいが、警察や消防の人たちとの連携も必要だと思うので、話を通してほしい。

【事務局】

警察・消防との連携については、部会が立ち上がり、その中で議論された結果についてどのように活かしていくかを検討し始める段階で話をするべきと考える。今の時点では、警察・消防との連携を話し合うことは難しいと思われる。

【山中委員】

連携が難しいとは、どうしてか。

【事務局】

現時点で部会の形が全く無いので、その段階で連携ありきとして話をするのは難しいということである。

【山中委員】

了解した。

【菅原委員】

市では、災害時、非難に際して支援が必要となる人が市に申請をすればリストに登録してもらえて、そのリストを元に自治会や民生委員の支援を得られやすくなる制度があると聞いたが、その制度の活用と制度の充実を部会の中で図っていくことについて、部会で話し合っていくということによいか。

【事務局】

ご指摘の制度は、避難行動要支援者台帳のことであり、災害時の避難で支援が必要という人が申請をしておけば、大規模災害が市とその近辺で発生した際に自治会などに公開するリストに登録することができる。これによって、避難の際の支援を広げるという趣旨の制度である。

ここまでの話を通して、防災に関係する分野は幅が広く、部会の中で何を話し合い、何を求めていくかは漠然としている。できれば、立ち上げについて提案された山中委員のほうで部会の目的、何について話し合うべきかなどを文書にまとめていただいて、事務局に提示していただけないか。

その文書とともに、市が策定した避難行動の計画を軸として部会の中で話し合う内容を決めたい。

### 【清水委員】

先ほどまでの説明で、市で避難における行動計画や対策について動いており、部会の話の内容もそれらとすり合わせを行うという旨の説明があったが、むしろ各障害者関連団体から推薦を受けた人が委員として構成されているこの自立支援協議会に、市のほうから計画や対策についての協議を持ちかけてきて策定をするというのが通常の流れではないかと個人的には感じる。「災害が起きた時に、障害のある人が、避難はしたけど避難所では非常に不便を感じる事が多くて利用したくない」と思うようなことがないよう、計画などに「福祉避難所」について考えるという項目を作ってほしいという意見を、この本会の委員から発表され、計画策定に反映させていくべきではないだろうか。

防災は部会に関係なく、全体で話し合われる問題であるし、防災以外にも市と連携を図らなければならない問題について意見を出し合っていくように、この協議会は成っていかなくてはならない。

### 【事務局】

計画策定については、策定段階で当事者団体と意見交換を行ったうえで担当部署と協議をしている。先ほどは市で策定をした計画を「軸」に話を進めると説明をしたが、障害のある人の視点に立って、この計画の内容で至らない部分を「補填」することについて話し合いをする部会でよいのではと考えている。

### 【清水委員】

計画策定について、市では各種審議会など意見の集約を行う機会が設けられているということは認識している。ただ、そういった意見集約の場が行われるという情報をもっと積極的に発信してほしい。知らない間に計画が策定され、その計画の存在が市の広報で「計画が策定された」という記事で初めて知るといったことが無いようにしてもらいたい。

また、先ほど山中委員の警察・消防との連携に対して、事務局は現段階で連携のことを話すのは難しいという回答をしていたが、警察・消防には個人的に是非関わってほしいという思いがあるので、事務局はいずれ必要になる場面があることを理解していただいた上で、いったん受け入れて欲しかった。

### 【川崎会長】

私どもの施設でも市から防災の電話が設置されているが、誰が中心となって運用を行うのかといったことが明確ではなく、単に置いてあるだけの状態である。施設に設置されたこういった防災の機器も含めて話し合ってもらいたい。

避難所の話も出たが、東日本大震災ではやはり、被災して避難所に訪れた福祉施設の利用者が障害を理由に出でいかざるを得なかったという話を聞いている。四街道市にはハード面で良い所がたくさんあるにもかかわらず知られていないという状況があると思うので、災害はいつ起こるか分からないが、話を進めてもらいたい。

### 【菅原委員】

参考までに報告だが、つくし座地域では、災害が起きて行政機関などの支援が届くまで1週間近くかかるという認識が強くあり、毎年10月ごろには大規模の防災訓練を実施している。昨年の訓練ではドローンによるパトロール実演などを行い、600～700人ほどが集まり、市の関係者にも来ていただいた。

### 【川崎会長】

警察に関する話もあったが、今警察も障害のある人への理解を深めようという動きが見受けられる。警察学校では障害者への理解に関する教育が始まったと聞くと、私どもが運営する施設の防災訓練に際

しても、ここ数年四街道警察署の生活安全課の職員が立ち会って、障害のある人の避難の方法などについて話を聞いてもらっている。このことから警察、特に生活安全課の職員は呼びかければ防災部会に参加していただけるのではないかと考えられる。

事務局、防災部会に関して他に何かあるか。

【事務局】

先ほどから話をしているとおり、計画にかかわる部分から話を進めていければと思う。

【川崎会長】

山中委員からは何かあるか。

【山中委員】

よろしくお願ひしたい。

【川崎会長】

この他のことで何かあるか。

【佐野委員】

県が制定した障害者計画で、差別解消法にある差別解消支援地域協議会の設置が目標として掲げられている。四街道市の相談支援の状況として、差別に関する相談が多く上がっているということであれば、同協議会の設置の必要性を考えていくべきだと思うが、四街道市の状況はどうか。

【事務局】

市の相談において、差別に関する相談は年に1～2件程度となっている。件数が今のところは多くないので、協議会を開くかどうかということは考えていない。

【川崎会長】

この他、何かあるか。

【山中委員】

あまり関係のないことかと思うが、障害者に対する公共交通機関の割引制度を受けるに当たり、今後は障害者手帳を提示する必要がなくなるという話を聞いた。そのようなシステムがすでに存在しているのか、また、その内容について詳細を伺いたい。

【事務局】

市では、把握していない。

【清水委員】

私どもの運営するグループホームの入居者が昨日、山中委員から説明のあったネットニュース記事の画面を見せに来て、「こんなことができるのか」という質問を受けた。その内容は、別途ICカードに当事者の情報を入力しておくことで、その都度手帳を提示させなくても割引を受けられるという内容だった。ただし、できるようになる可能性という段階の話だったので、本当にできるのかどうかは明確になっていない。

【川崎会長】

厚生労働省ではすでに、詳細はまだ示されていないが、障害手帳のICカード化について指針を決定しているようである。

他にあるか。

無いようなので、議題（２）については以上とする。

進行を事務局に返す前に、今回を以て私は会長を下り、自立支援協議会での活動もこれまでとさせていただきます。今、施設のほうでは人手不足に伴う人材確保が急務の課題となっており、私のほうは人材を集める側として今後は動いていき、協議会の活動についてはいろいろな部会にも参加できる後進を立てたいと考えている。10年に渡り活動をさせていただいたが、皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

**【川島課長】**

川崎会長におかれましては、これまで市の障害福祉のためにご尽力をいただきました。本当にありがとうございました。

先ほどの川崎会長の話もあった通り、人手不足というのは福祉だけでなく教育の現場でも取り上げられている大きな問題となっている。限られた人材の中で、今後の協議会の活動を行っていくので、皆様におかれましては引き続きご協力をお願いしたい。

以上をもって平成30年度第2回四街道市障害者自立支援協議会を終了する。皆様、長時間に渡りありがとうございました。